

黄金の国 ジパング

We are HIRAKIN MAN

情熱編

熱い思いがリサイクルを変える。

HIRAKIN SPIRITS

RETURN TO LIFE

HIRAKIN

黄金の国ジパング

情熱編

熱い思いがリサイクルを変える。 HIRAKIN SPIRITS Ver.2

RETURN TO LIFE

HIRAKIN

URL <http://www.hirakin.co.jp>

E-mail honsya@hirakin.co.jp

平林金属株式会社

本 社 〒700-0973 岡山市下中野347-104-2F TEL086-246-0011 FAX086-246-1100
岡 山 工 場 〒700-0973 岡山市下中野377 TEL086-241-6943 FAX086-241-8485
東岡山営業所 〒709-0604 岡山市寺山33-1 TEL086-297-2911 FAX086-297-2912
港 工 場 〒702-8003 岡山市新築港1-22 TEL086-277-2371 FAX086-277-2373
水島営業所 〒712-8073 倉敷市水島西通1-1920 TEL086-446-1165 FAX086-446-1167
山 陰 工 場 〒683-0845 米子市旗ヶ崎2315 TEL0859-24-0951 FAX0859-24-0958
リサイクルファーム御津 〒709-2124 岡山市御津高津120-13 TEL0867-24-0505 FAX0867-24-9696
西大寺工場 〒704-8122 岡山市西大寺新地108-5 TEL086-944-7311 FAX086-944-1173
神戸事務所 〒652-0831 神戸市兵庫区七宮町1-4-18 産興ビル2F TEL078-651-3863 FAX078-651-3863

株式会社ヒラキン

リサイクルステージ玉島 〒713-8103 岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8259-17
TEL086-525-7117 FAX086-525-2772



創業から半世紀。ヒラキン。こと平林金属は、鉄を主体に、リサイクル企業として着実に成長を続けてきた。だが、業界は今、大きな変革期を迎えている、と平林実と言う。「グローバル、環境、地デジ。この三つが、私たちにとって今後数年間の課題となります」

人は企業なり、で ヒラキンは 動いている。

黄金の国 情熱編
ヒラキン SPIRITS

まず、企業活動のグローバル化。戦後の日本には「鉄は国家なり」という言葉があった。鉄の増産を国策の柱とし、戦後復興、高度成長を成し遂げた日本は「アジアの奇跡」とまで言われた。だが、現在を考えると、どうだろう。高層ビル、橋、車、家電製品など、今の私たちにリサイクルできる鉄が無尽蔵にある。いつの間にか、日本は世界でも有数の鉄鋼保有国になっていったわけだ。「今、鉄を本当に必要なするのは、鉄は国家なり、という時代を迎えた、開発途上の国々です」と平林は断言する。中国、東南アジア、インド、アフリカ。飽和状態の日本から、世界の隅々まで資源を循環させること。環日本海をカバーする山陰工場、さらに世界マーケットを視野に入れたリサイクルステージ玉島が、今後の世界戦略の拠点になる。

そして、鉄のリサイクルは、資源循環だけでなく、地球全体にもうひとつの恩恵をもたらす。

まず、CO₂の削減である。リサイクル鉄は、鉄鉱石から生産するより、CO₂排出量が数分の一と圧倒的に少ない。京都議定書の発効で、日本はCO₂削減を先導する立場になったわけだが、国内での削減目標達成に寄与するとともに、輸出によって地球規模での温暖化防止にも貢献することになる。「日本の場合もそうでしたが、国がめざましく発展する時ほど環境が疎かになりやすい。だからこそ、リサイクル鉄を世界に供給する責任があります」と平林は強調する。

三つめが、地上デジタル放送。二〇一一年にアナログ放送が終了するため、映らなくな



った数千万台のテレビが、リサイクル市場へと流れこんでくる。まさに業界にとっては特需となるわけだが、喜んでばかりはいられない、と平林は反論する。「正確な数字は把握できませんが、買い換えが終了直前に集中した場合、とても現在の工場施設・人員では対応できない。どう対応するかで、ヒラキンの力量が問われるんです」と苦悩をもらす。だが、平林は、若い社員たちの柔軟な感性と新鮮なアイデアに賭けたい、と言う。「私たちの世代には、発想の限界がある。それを若い人たちに軽く飛び越えてほしいんです」

「鉄は国家なり」と同様に、「人は企業なり」を持論とする平林は、「我が社は人材がすべて」と言い切る。では、一般の社員たちはどんな仕事をしているのだろう。そもそもヒラキンとは、何をやる会社なのか。その実態を次のページから登場する十人の仕事ぶり、コメントから読み解いていただきたいと思う。

平林実 は期待する。

Mimoru Hirabayashi





武部宏は志す。
Hiroshi Takebe



HIRAKIN 武部



三好和典はめざす。
Kazunori Miyoshi



HIRAKIN

乗ろうとしたのは、別の船。でも、行き先は同じでした。

黄金の国 情熱編
ジバング HIRAKIN SPIRITS

業務管理課・課長の肩書きを持つ三好には、いくつもの顔がある。岡山工場の営業担当、そして業務管理の責任者。さらに鉄スクラップの積載・輸送、工場が忙しい時には現場であらゆる業務を率先して行っている。まさに万能選手だ。

持つ。リサイクルや産業廃棄物に関する各種法律に精通し、岡山工場のISO責任者にもなっている。だが、経験と実績を重ねることに、ますます重圧と緊張が高まっていくのだという。

意ではない」と語る一方で、お得意先から全幅の信頼が寄せられているのは、そんな三好の誠実さが評価されているからだろう。大学では農学部で環境資源について学んだ。「本当にやりたかったのは砂漠の緑化でした」と振り返る。温暖化防止と食糧問題。当時から、地球環境問題には人一倍関心が強かった。「学生時代の想いとは、別の船に乗ったかもしれない。でも、最終的な目的地は同じなんです」と三好は誇らしげに締めくくった。

黄金の国 情熱編
ジバング HIRAKIN SPIRITS

では、合理的で効率のいい作業ができる環境を作りたいという。もちろん、目的はリサイクル率をさらに高めること。また、玉島に新しくラインが導入された自動車リサイクルに関しても積極的に取り組みたいと意欲を見せる。

もともと環境問題に興味があり、リサイクル企業ということでヒラキンを選択した。だが、そのイメージとは裏腹に、実際は体力・気力勝負というところがあって、根性がないと続かないと実感したという。「要は意識の持ち方ひとつだと思います。面倒

だと思えばすべてが嫌になるし、これをやってみて次はあれをする、そう自分で仕事を組み立てていけば、あつという間に仕事が終わったりする。計画通りにできた時は喜びもひとしおです」と武部は実感を込めて言う。

入社から二年。仕事にも慣れて、今はだいぶ楽になったかという問いに、「いえ、きついですが」と笑って答える武部。「別に楽な仕事をしたいわけじゃなく、やりがいのある仕事をしたいです」といささかの照れもなく、武部はそう言い切った。

一〇〇%のリサイクルをめざす。入社時の研修。ヒラキンで何をやりたいかという発表の場で、武部は力強くそう発言した。だが、実際にそれがいかに大変なことかを身を持って知ることになる。



楽な仕事をしたかったのでなく、やりがいのある仕事をしたい。



小見山敦吏は追い込む。
Atsushi Komiyama



自分の可能性を どこまでも信じたい。

その時、ヒラキン全社が歴史的快挙に沸いた。平林金属クラブが男子ソフトボールリーグで日本一の座に輝いたのである。日本男子ソフトボールリーグは、東日本・西日本リーグに分かれ、それぞれ上位四チームが決勝トーナメントに進出する。西日本リーグ所属から進出した平林金属クラブは、決勝トーナメントで奇跡的な三試合連続サヨナラ勝ちを収めて初優勝した。リサイクルファーム御津に所属する小見山も、メンバーの一人。五番を打つ強打の外野手として優勝に貢献した。「サヨナラになる前に打たなければいけなかった」と反省するが、これは主力打者としての自覚。社員やパートの人たちから浴びせられる祝



福の言葉に、自然と笑みがこぼれていく。中学、高校、大学と続けた野球。就職を契機にやめるつもりでいた。だが、面接の際に副社長の平林から平林金属クラブへの入部をすすめられる。自信满满で実技試験に臨んだが、圧倒的なレベルの高さに衝撃を受けた。「球は速いし変化もすごい。まったく歯が立たなかった」と小見山。ソフ

トボールの魅力に目覚めた瞬間だった。以後、毎日のように練習に打ち込むが、なかなか結果が出ない。入って二年間は打のみで、ほとんど出場機会がなかった。ようやく出番が巡ってきたのは三年目。途方もない努力でつかんだレギュラーの座だった。チームとして全国優勝も経験し、リーグ連覇が今後の目標。さらに個人の目標として、日本代表入りをめざすなど自身自身をさらに上へ上へと駆り立てる。現在の仕事は、テレビラインでプラウニングの処理を担当する。入社当時は体格の良さもあり、家電の荷下ろしを任せられた。「半年で十キロやせるくらいきつかった」と振り返る小見山。筋トレの一種と思うことでがんばったという。仕事の後は、約三時間、ソフトボールの練習と、徹底的に自分を追い込んだ。不屈の闘志と日々の努力が、小見山の自信の裏づけとなっている。

家電リサイクル法指定引取場所となっている岡山工場。買い替えや引越などで発生した大量の廃家電が持ち込まれる。その数、一日に約三〇〇台。その対応にあたっていているのが福原だ。家電小売店と契約している専門の業者が中心だが、さまざまな産業廃棄物を取り扱う解体業者や一般の方もいる。なかには、家電リサイクル法の中身をまったく知らずに持ち込んでくるケースも多いという。廃家電の引き取りには、四品目に応じた家電リサイクル券が必要となる。券は家電を取り扱う小売店または郵便局で取り扱っているが、引取場所の窓口で直接販売することはできない。改めて券を購入してから再度持ち込まなければならないという面倒さから、苦情を福原にぶつけることも。そんな時、福原は穏やかに、しかし毅然とし

た態度で接するという。「法律の主旨をきちんとお伝えして、わかっていたらできるだけ根気よく説明します」。岡山工場は中四国で二番目の取扱量を誇る。しかも、数だけでなく、ミスも少ないと高く評価されている。「当社は家電リサイクルで中四国地域の管理会社となっていて、地域の業者さんの手本になるべき立場。いい加減な仕事はできない」と福原は強調する。ミスの多くは、現品とリサイクル券の品目が一致しないという単純なもの。福原はどんなに忙しくても、現品と券

の照合を厳重に行い、この種のイメージミスをほぼ根絶している。だが、気の緩みはない。自分の仕事が会社の評価につながるだけに、重圧と責任が福原の肩のしかかる。一方、志望の動機は「単純にリサイクルの横文字がカッコよかったから」と明かす。入社すると、イメージとまったく違い、逆に「人がひとつひとつ、汗を流してやるカッコよさ」に目覚めたという。「影響されやすい性格」と自己分析をする福原。何よりも会社と仕事に大きな影響を受けて、福原自身が家電リサイクルのプロとして太陽のように光り輝いている。

カッコよさの価値観が 入社して変わりました。

「ミスをほぼ根絶している。だが、



福原香織は輝く。
Kaori Fukuhara





Yohsaki Yamamoto
山本喜章は徹する。

スタッフ全員の サポーターでありたい。

東岡山営業所の山本喜章は、いくつもの顔を持っている。大型トラックの運転手、現場での作業員、ISOの事務局員、さらに営業までやる。入社二年目にして、オーラウンドプレイヤー。「ただの何でも屋です」と山本は照れる。

だが、当然のことながら、最初からいろんなことが「できた」わけではない。創る産業より、捨てる側の産業に興味があった入社したもの、いざ入ってみると右も左もわからない状態。しかも、ISO事務局員に任命されたのは入社直後で、「自分ができるのか」と眠れない夜が続いたという。それでも、山本は持ち前の明るさ、



いる。異例の若さで抜擢された山本からは、「自分が次代の担い手」といった気持ちは感じられない。あくまで自然体。自分の置かれていた状況を「所長の補佐というより、ここに

素直さを前面に出して、着実に技術と知識を身につけていった。「最初から自分で判断するのは無理。やはり素直に教えを請う謙虚さが必要」と強調する。
山本は東岡山営業所の代表として、ISO会議の他、営業会議にも出席する。もちろん、会議では一番の若手。まだ積極的に発言して、会議をリードしていくという立場ではない。そこで得た情報を営業所のスタッフ全員に伝え、経営陣と現場の橋渡しをすることが「自分の役割」と割り切って

いるスタッフ全員のサポーターです」と言い切る。
一方、社外ではリサイクル企業に勤めていることで、知人から質問されることも多い。一般のゴミから、家電、自動車まで、可能なものはすべて再資源化することが今や常識。「これは義務ではなく、自分たちのため」と説明するたびに、「ああ、僕の会社はすごいことをやってるんだ」と誇りに思えるという。報われる瞬間とは、上司からの評価より、社会からの評価なのかもしれない。

本社総務部・OA課に属する太田優子は、コンピュータ、手書きの伝票・請求書など、事務業務全般をこなす。基本的にどれも簡単な仕事。だからこそ、一瞬でも気が抜けないという。「ちょっとした不注意で、取引先との信頼関係を損ねてしまうこともあります。特に伝票類はどんな小さなミスも許されません」と太田は強調する。

実際にこんなことがあった。東京製鐵(リサイクル鉄の生産メーカーで国内最大手)では、経済動向、世界の相場に応じて不定期に買取価格が変動する。それにより、ヒラキンの仕入単価が決まるので、価格変動のたびにFAX・ハガキで業者の方々に知らせなければならぬ。太田はこの単価を間違えて印刷してしまった。幸い、発送直前に気がついたという。「もう少しで取り返しつかないことになるどころでした。それ以来、どんなに忙しい時もチェックは怠りなくやろう、と」



太田は学生時代まで東京に住んでいた。卒業後、岡山に引越すことになり、合同説明会でヒラキンのことを知る。ブースで話を聞いて、面白いなと感じたのは、地球環境保護の視点から会社を大きくする点。「今の時代、環境問題は避けて通れないので、

どこの企業も環境に配慮して活動します、というところがほとんど。でも、ヒラキンの場合は、企業活動そのものが、環境保全に直結しているわけで、まだまだ伸びていく会社だな、と」

一方、勢いのある会社の中であって、あまり目立たない、現在の裏方的な仕事をどう思うかという問いに、不満はない、と断言する。「現場や営業活動を支えるサポート役に徹したい。そういう意味で、逆に目立ってはいけな仕事だと思っています」と太田。彼女をはじめ、多くのサポーターたちが、ヒラキンの躍進をしっかりと支えている。

目立たない、というより、 目立ってはいけな仕事。

Yuko Ota
太田優子は支える。



中務真吾は生み出す。
Shingo Nakatsukasa



Ryuji Suyama
陶山竜治はめぎす。



地球の未来を輝かせる 実験室でありたい。

黄金の国 情熱編
シバング HIRAKIN SPIRITS

「実験がやりたくて入った」と入社動機を語る中務は大学の工学部出身。入社後、港工場に配属となり、ある画期的な装置に出会うことになる。
プラスチックの乾式比重分離装置。それまで湿式（液体で比重を利用する方法）で分離するのが一般的だったが、廃液処理など環境負荷が大きいため、乾式への移行が業界の課題となっていた。十数年研究を続けていた岡山大学が、実用化に向けて九州の永田エンジニアリングと乾式比重分離装置の開発に成功。港工場に、乾式装置として日本で初めて導入された。
開発段階で成功しても現場でうまく稼働できるのか、未知数の部分も多かった。そ



れだけに中務の役割は重大だったといえる。「とにかく実験の繰り返し。数十分おきに一日中やったこともある」と中務は振り返る。分離回収後にサンプリングをし、不純物がどれくらい混じっているかを検証。純度を100%に近づけるために、何度も改良を加えていく。「実験といっても、装置だけで会議室くらいある巨大なもの。走り回っ

てへとへとになりました」と中務は笑う。その結果、分離回収の精度が飛躍的に向上し、港工場でフル稼働している。
中務は西大寺工場内にある「技術開発センター」に所属する。スタッフは五名。全工場のラインや装置の開発を行う、ヒラキンの頭脳ともいえる部署だ。現在、中務が取り組んでいるのは、西大寺工場のアルミラインの開発・設置。先のプラスチックと同じ原理の分離回収装置を入れて、こちらもアルミ分野では日本で初の導入となる。「メーカーさんとの共同作業でようやく実現にこぎつけました」と胸を張る。
中務の夢は、新しい技術の開発をヒラキンが100%自分で行うこと。「60歳くらいになってそれが実現できていれば」と中務は目を細める。そのためにも、着実に実績を積み重ね、研究開発ができる環境を会社の中に整備していくつもりだ。

その夜、大学の教授から電話があり、「採用担当者が君をぜひ欲しいと言っている」と伝えられた。会ったその日にスカウトされたわけである。プロボースされたら断れませんか、と陶山は笑う。だが、企業研究するほどに、リサイクルへの興味がわき、社会への貢献度、将来性を含めて「入社したい」という気持ちが強くなっていった。
入社後は、岡山工場に配属。現場業務と運送に携わる。「まず体力と気力。配送に行っても、中四国・関西地区へ引き取りに行

くから大変です。何で大学を出てトラックに乗るんだと親は言いましたけどね」と陶山。三年間、現場でみっちり鍛えられた後、本社へと異動になる。本社での仕事は、許可等の管理や支払業務、ISO業務など、事務が中心。特に許認可に関わる業務は、法律の知識が必要なので、官公庁の説明会やインターネット・書籍を通じて勉強漬けの毎日だったという。「産業廃棄物を取り扱う性質上、ヒラキンの仕事は、ほぼすべて許認可が必要となります。この管理が疎

かになると、業務がストップしてしまいますので、責任は重大です」と陶山は胸を張る。ただし、産業廃棄物という名称は変更すべき、と付け加えた。捨てずに活かすので、産業再資源化物と呼ぶべきだ、と。
そして、二〇〇六年より、リサイクルステージ玉島へと異動。販売・仕入・経理・在庫管理の四つの業務を幅広く担当する。「玉島はヒラキンの中でも最大規模の工場しかも、世界各国に向けての輸送基地となるわけですから、大きな責任を感じます。やるからには日本一のリサイクル工場をめざしたいですね」と陶山は締めくくった。

黄金の国 情熱編
シバング HIRAKIN SPIRITS

プロ。ホーズされたら、断れませんかよ。男として。



Satomi Kuyama

久山紗智美は学ぶ。



お客様のために、
自分を磨きたいのです。

久山がヒラキンと出会ったのは、企業の合同説明会だった。出展しているブースをすべて見て回ったが、ヒラキン担当者から話を聞いて「これだ」と確信したという。

「普通の企業は物を作って売りますが、逆に買って作るのが仕事。お客様に喜んでもらうって、しかもそれが地球環境のためになる。まさにいいことづくめです」と仕事の中身にやりがいを感じた。

現在、久山が身を置くのは東岡山営業所。女性スタッフ二名で、持ち込みのお客様への応対を中心に、事務全般を担当する。持ち込まれた鉄スクラップはまず計量し、現場でランク別をする。それに分別手数料を



加味したものを久山が集計し、お客様に見積りとして提出。それで了解を得られれば、めでたく取引成立となる。

お客様は専門の業者が中心だが、一般の方も増えている。特に、北京五輪前に鉄相場が異常な高騰を続けていた時は、連日、順番待ちになるほどたくさんのお客様が詰めかけ、多忙を極めた。「現場も私たちがフル回転で対応しなければ、追いつかない状態。それでも、最後には喜んでもらえるのがうれしくて」と久山。自身、仕事のや

りがいは「お客様の満足」と言い切る。
その後、鉄相場も下がり、目の回るような多忙さからは解放された。落ち着いて仕事ができる反面、「少し寂しいですね」と漏らす。だが、時間に余裕がある今こそ、いろいろなお客が勉強できるチャンスだと久山は言う。「これまで鉄相場についても上司に聞くだけでしたが、自分で調べて情報をキャッチする必要性を感じます。リサイクル業界はもろろん、グローバル経済の動向も含めて、お客様にリアルタイムの情報を提供したい」と意気込む。

めざすのは、世界に精通する鉄のプロフェッショナル。入社四年目を迎えた久山は、さらに上の段階へ自身のキャリアを磨いていく。

黄金の国 情熱編
ジバング HIRAKIN SPIRITS

西大寺工場の原は、社内では異色の「開発畑」を歩んでいる。入社して二年はリサイクルファーム御津の冷蔵庫チームに所属。その後、同じ御津工場内にある技術開発チームに加わった。そして、二〇〇七年より西大寺工場の開設とともに異動、技術開発センターの立ち上げに尽力した。「御津では通常業務も行っていたが、今は開発だけに専念できる」と原はセンター設置の意義を説く。御津工場はプラスチックの研究開発を主体としていたが、センターではアルミなどの非鉄金属をはじめ、工場全商品が開発の対象となる。



開発分野で着実に成果を上げるニューリーダーに対して会社の期待も大きい。海外出張へも二度、派遣された。最初はアメリカ・カナダで、現地のリサイクル工場や環境関連の展示会を視察。次は中国で、プラスチック関連の視察が主体となった。前者は合理化で、後者は人海戦術。両方を視察したことで、めざすべきリサイクルの方向

が見えてきたという。「合理化とリサイクル率の向上。これを同時に成立させるのは開発の力」と意欲を燃やす。

一方、人望の厚い原には、本業以外にもさまざまな「副業」の依頼がある。ホームページの管理・更新、社内イベントのサポートなど。なかでも地元岡山で開催される「うらじゃ祭り」に、ヒラキンは毎年踊り連「リサイクルダンサーズ」として参加しているが、原は現在、隊長に就任。約二ヶ月かけて準備した成果を大観衆の前で披露する。「人前に出るのが苦手だった私が、今はうらじゃの隊長。やれば、自分を変えられるんです。新入社員のみなさんも一緒に熱くなってほしい」とエールを送る。

黄金の国 情熱編
ジバング HIRAKIN SPIRITS

チャレンジすること
自分は一変する、変えられる。



原順一郎は燃える。
Junichiro Hara





大切な資源を活かすとともに、若さと情熱を活かす企業でありたい。



ヒラキンは「資源」を活かす会社。



●企業概要

本社所在地 岡山市下中野347-104
 ヒラキンビル2F
 創業 昭和31年10月
 資本金 9,980万円
 代表者 代表取締役 平林久一
 従業員数 285名
 年間取扱量 380,000トン

平林金属株式会社

- 本社(岡山市)
- 岡山工場(岡山市)
- 東岡山営業所(岡山市)
- 港工場(岡山市)
- 水島営業所(倉敷市)
- 山陰工場(米子市)
- リサイクルファーム御津(岡山市)
- 西大寺工場(岡山市)
- 神戸事務所(神戸市)
- ヒラキンパーキング(岡山市)

株式会社ヒラキン

- リサイクルステージ玉島(倉敷市)

グループ企業

- ヒラキン興産株式会社
- ヒラキンテック株式会社
- ヒラキンホーム株式会社

●沿革

昭和31年10月 平林久一個人創業
 昭和35年7月 有限会社平林商店設立
 昭和38年4月 平林金属株式会社社名及び組織変更
 昭和42年6月 旧本社工場新築
 昭和46年4月 旧プレス工場開設
 昭和47年8月 新岡山港営業所開設(現、港工場)
 昭和48年8月 水島営業所開設
 昭和56年8月 東岡山営業所開設
 昭和57年11月 旧本社工場、旧プレス工場岡山市下中野に移転
 昭和60年9月 神戸事務所開設
 平成元年9月 旧米子営業所開設
 平成3年4月 港工場開設
 平成7年4月 本社・ヒラキンビル完成
 8月 神戸工場開設(震災復興対策期間)
 平成8年8月 立体駐車場ヒラキンパーキング完成
 平成9年1月 岡山工場新築
 平成11年4月 大元寮完成
 平成12年9月 おかやまモールオープン
 平成13年4月 リサイクルファーム御津開設
 8月 御津寮完成
 11月 セブンイレブン岡山藤崎店オープン
 // HIRAKINライズ球場完成
 平成14年2月 本社、御津工場、ISO14001取得
 平成15年2月 HIRAKIN環座の会発足
 4月 山陰工場開設
 9月 岡山工場、港工場、水島営業所、ISO14001取得
 平成16年7月 東岡山営業所、山陰工場、ISO14001取得
 8月 エヴァーワン西古松完成
 平成17年4月 セブンイレブン岡山平井4丁目店オープン
 // 御津第二寮完成
 平成18年4月 (株)ヒラキン リサイクルステージ玉島開設
 平成19年2月 (株)ヒラキン リサイクルステージ玉島 ISO14001取得
 3月 エヴァーワン玉島完成
 11月 西大寺工場・技術開発センター開設
 平成20年2月 西大寺工場 ISO14001取得
 11月 国分物流センターオープン

ヒラキンは「人」を活かす会社。

●サークル活動



女子ソフトボールクラブ



男子ソフトボールクラブ



軟式野球部



フットサルクラブ「HIRAKIN ferro」

●地域とともに



ソフトボールクラブの本拠地「HIRAKIN ライズ球場」。子どもたちのソフトボール大会などを開催し地域交流を深めている。



「うらじゃ」リサイクルダンスは、毎年熱くリサイクルをPRする。



工業団地での清掃ボランティア活動にも積極的に参加。



リサイクルファーム御津では、工場見学の子どもたちにリサイクルに関する授業も開催。

●社宅・寮



エヴァーワン西古松



大元寮



御津第一・第二寮



エヴァーワン玉島

HIRAKIN